



△植田委員長(左)に答申書を手渡す足立会長

# 国東市学校教育 審議会が 答申

昨年の2月21日に国東市教育委員会から「国東市長期学校教育環境整備について」諮問を受けていた、国東市学校教育審議会(足立和久会長・14人)が、12月22日、植田和彦市教育委員会教育委員長に答申しました。

審議会では、児童数が減少している国東市の現状を踏まえ、学校の小規模化がもたらす学校教育への影響等を検討し、小学校の教育効果の向上や教育環境の整備を図ることを念頭において、学校の適正規模、適正配置について審議をすすめてきました。

答申では、現存する学校を統合等により見直すことは、極めて困難な課題に取り組むこととなるが、学校本来の機能が十分発揮される新たな学校づくりの観点から、(注)過小規模校を解消し、適正な学校規模を維持する必要がある。具体的に適正配置を実施するにあたっては、保護者や地域住民等の関係者の理解と協力を得て、また、関係者の意見を参考にし、学校現場や地域が混乱しないように配慮することが必要であるとしています。教育委員会では、この答申内容を検討し、学校教育環境整備総合計画書に盛り込むなど、具体化に向け取り組むこととしています。

(注)複式学級のある学校(5学級以下)

## 学校教育審議会の答申(抜粋)

### 学校規模の現状と課題

少子化・過疎化が進行するなか、本市においても児童数の減少は今後も続く予想され、過小規模校が学校運営や教育に与える影響は大きいものと考えられる。

#### ◆国東市の学校規模の現状

市の合併時、小学校は18校設置され、児童数は1,768人であった。平成20年4月1日に、安岐町の4小学校(西武蔵小学校、朝来小学校、西安岐小学校、南安岐小学校)が統合し、安岐中央小学校が新設された。この統合によって小学校15校となり、1,650人の児童が市内小学校に通つてゐる。しかしながら、平成25年には1,298人に減少し、現在より約2割の減になることが予測される。

また、市立小学校の児童数の減少に伴って学級数の減少も進み、本市小学校規模は、1校当たり平均児童数及び学級数が110人、6・06学級(平成20年4月8日現在)となっている。特に1学年1学級が維持できない6学級未満の学校は15校中8校あり、複式学級を強いられる。さらに、複式学級が2学級以上ある小学校は5校もあるのが国東市の現状である。

### 小学校の適正規模及び適正配置

小学校の適正規模は、教育活動、児童の指導上、学校運営上などの観点から、児童の教育環境を更に向上させていくために、少なくとも最低1学年1学級以上を構成できる学校規模が必要であり、小学校の適正規模・適正配置に関しては次のとおりの結論に達した。

(1)小学校全校児童数50名を割り込む学校については統合の検討を開始し、複式学級の解消を図るものとする。

(2)小学校全校児童数30名程度の学校については児童間の切磋琢磨が出来る教育環境が困難となるため、積極的に統合を図るものとする。

なお、中学校については、平成21年4月1日に、国東町内の4校が統合し、「国東中学校」として開校予定である。これで各町に1校の中学校が配置されることになり、学校間の距離、地域事情を踏まえてほぼ適正な配置になったと判断されるべきであろう。

また、施設についても「国東中学校」の耐震補強工事や大規模改修工事が終了すれば、すべての中学校で教育施設が整うことになる。